令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　折尾東　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１８日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

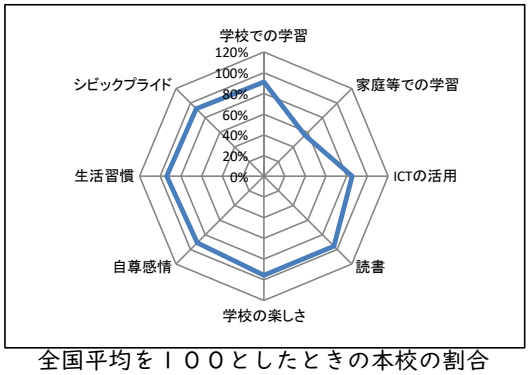
⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力・判断力・表現力を問う問題では、全国平均とほぼ同程度の結果であった。一方で、漢字を文中で正しく書き直す力に課題があり、正答率が全国平均を下回る傾向が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	・情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	全体的にみると、全国平均を下回った。しかし、全体的に無答率は低く、複雑な問題や説明を求める問題でも粘り強く回答しようとしていた。「図形」や「記述式」の問題を苦手としている児童が多い傾向である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	・「図形」の領域の問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	電気を通すものや電流がつくる磁力についてなど、「エネルギー」を柱とする領域を苦手とする児童が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	・電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を１００としたときの本校の割合

質問調査の結果分析

・　「友達関係に満足している」「学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の質問には９０％以上の児童が肯定的な回答をしていた。一方で、「自分にはよいところがある」の回答は、全国平均を下回った。良好な人間関係の中穏やかに過ごしているものの、自己肯定感を向上し自信を高めていくことが課題である。
・　「ICT機器で文章を作成することができる」「プレゼンテーションを作成することができる」の質問には、約８５％以上の児童が肯定的な回答をし、全国平均を上回っていた。しかし、「ICTを使って情報を整理することできる」の質問には４８％の児童しか肯定的な回答をせず、情報と情報を関係づけて考え整理していくことが課題である。
・　放課後や休日の家庭学習時間は全国平均を大きく下回り、家庭での学習習慣の定着が課題です。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・主題研究を核として、各教科において主体的・対話的で深い学びを育む授業づくりをさらに追求する。
・GIGA端末を活用し、個別・最適な学びの機会を推進していく。
・授業における学び合いや委員会活動など、一人一人の活躍の場を創造し、体験の中で自信を高める。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・学んだことの定着や習慣化のためにも、自主学習ノートの取組を推進していく。
・AIドリルなどICT機器を使った家庭学習を取り入れ、学ぶ意欲を高めていく。